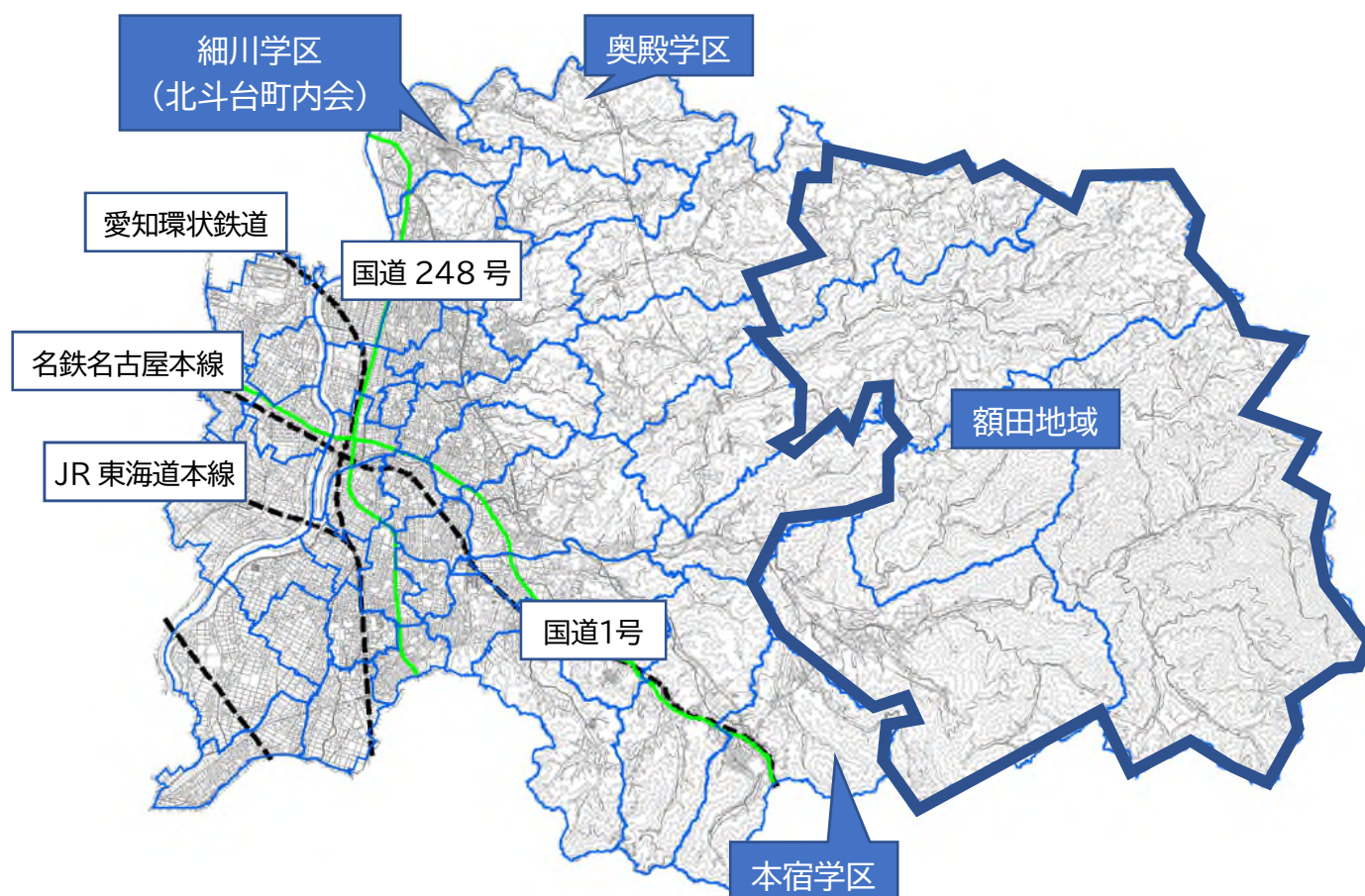


地域内交通の検討状況について

1 はじめに

本市では令和6年6月に地域内交通導入の手引として「みんなでつくる 地域の交通」を策定し、さらに「共助交通」の具体的な検討、導入、運営を行うためのガイドラインとして令和7年5月に「“共助による地域内交通” 編」を策定し、地域内交通の導入を目指す地域の支援を進めている。

2 各地域の検討状況



北斗台町内会（手引のSTEP 2から3へ移行を目指す段階）

- 令和3年度に実施されたアンケートなどを通じて、住民の高齢化などを理由に、坂の多い地形のため、自宅から団地内バス停留所までの移動が困難な住民が増加傾向であることが確認された。
- その後、地域住民が運転手などを担うことを念頭に、団地内の短距離の移動の足を確保するため、グリーンスローモビリティを活用した移動手段の導入について検討が進められ、令和5年度には体験会、令和6年度には導入可能性等を調査するために試験運行を約1か月実施した。
- 試験運行で、町内会による運行意志や利用者の需要など、この町内会におけるグリーンスローモビリティの導入可能性について確認ができたため、今後は地域が運行主体となる「自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）」又は「無償運送：道路運送法の（許可・登録を要しない運送）」の運送方法を地域で検討し、実証運行を目指して準備を進めていく。

奥殿学区（手引のSTEP 2）

- 令和3年度に奥殿学区の地域活性化策を策定した際、住民の一番の関心毎は日常生活での移動手段に対する不安であることが確認された。
- 令和4度末に同じ事情の恵田学区と「高齢化時代の新しい公共移動手段を実現する北部中山間地域連絡協議会（略称：新公共移動手段連絡協議会）」を協同で立上げ、各学区に最適な公共移動手段を調査研究して行政側に提言、実現していく活動を開始した。
- 令和5年度に地元が実施したアンケートでは「バス路線の利活用に繋がる学区内循環バス」及び「Door to Doorを実現する公共交通手段」を求める意見が多い結果となった。
- 令和7年度からは本格的に移動手段確保に向けた検討が進められており、奥殿陣屋バス停留所（JR岡崎駅・名鉄東岡崎駅方面へ平日25便運行）へのアクセス向上を目指し「自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）」又は「無償運送：道路運送法の（許可・登録を要しない運送）」の導入の可能性について調査・研究が進められている。

本宿学区（手引のSTEP 1）

- 愛知県初の本格的アウトレットモール「三井アウトレットパーク 岡崎」の開業が、令和7年11月に控えている。
- 地元では「本宿学区まちづくり協議会」が設立され、地域課題等に対する活動が行われている。
- 公共交通を利用した「三井アウトレットパーク 岡崎」への来場を促すため、三井不動産と関係交通事業者による調整が進められている。
- 令和6年度末に改定された岡崎市立地適正化計画において、本宿駅周辺の都市機能誘導区域は、これまでの「地域拠点」から「準都市拠点」に格上げされており、交通の拠点整備の一環として、額田地域で運行するコミュニティバスの本宿学区までの延伸などの声もある。

額田地域（手引のSTEP 4）

- 額田地域には名鉄バスの運行する路線バス2路線（民間事業者補助路線）のほか、コミュニティバス4路線（市の運行委託）及び小学校・中学校への通学のためのスクールバス（市の運行委託）が運行されている。
- 下山地区線を除くコミュニティバス3路線については週1日・午前中を中心としたダイヤでの運行を行っており、利用者数は年々減少傾向にある。
- 令和6年度に実施した額田地域の公共交通に係るアンケートでは、既存の額田地域コミュニティ交通の見直しとして、フリー乗降区間の拡大が大きな割合を占めていた。
- 今後地域に導入していく公共交通として、同アンケートでは乗合型デマンド交通やタクシーのような交通を導入したほうが良いと考える住民が比較的多いことが確認された。
- 額田地域の5つの小学校のうち4小学校については、岡崎市内の小学校に在籍する児童であれば、現住所のままで一定の条件のもと、入学・転入・編入することができる小規模特認校に位置付けられており、公共交通等での通学手段の確保を求める声もある。
- 愛知県では県内市町村と連携して人口減少対策を検討する愛知県・市町村人口問題対策検討会議内に地域交通確保ワーキンググループを設置し地域交通の確保を議題とした検討が進められている。その一環として、額田地域は令和7年度に愛知県が実施する「公共ライドシェア実証推進事業」の支援地域となっており、今後、ワークショップ等を通じて、持続可能な地域交通の維持・確保に向けて、「自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）」などの地域が主体となって運行する交通モードの実現可能性について調査・研究を進めていく。